

《今朝の聖書から》『ルカによる福音書』21:25～36は、私たちの日常的感觉を越える事から始まっています。しかし“人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである。”というのはどうやら本当のようです。個人的な環境を見ても、社会的政治的環境を見ても、“不幸だ”と嘆くことが実に多いのではないのでしょうか。しかし大切なことが在ります。私たちがなんとおもうと、なんと思おうと、毎日日が経って行くということです。時間は連続して流れているのです。イエス様はこの教えで、このような嘆きと不安の時間の流れの中に、“目を見開き、救いに関して繊細な感覚を持っているならば、救いも見える”と仰っているのです。そんな不安のただ中に“そのとき、大いなる力と栄光とをもって、人の子が雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。”と27節で予告しておられるのです。心が不安で貧しいことをよく知っている人は、救いの印にも敏感で居ることが出来ます。そのような人、主の再臨の近いことを見てとった人の姿を“これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから”と28節で示しておられます。私たちは、不幸や不利益にはよく反応しますが、それだけでは、出口のない闇の中で苦しむだけでなのです。救いに向かって“頭を上げて”いなければならないのでしょうか。またこのような人の姿を“これらの起ろうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい”とも36節で示しておられます。世の中に喜びを持って臨む人の姿は“あなたがたが放縦や、泥酔や、世の煩いのために心が鈍っているうちに、思いがけないとき、その日がわなのようにあなたがたを捕えることがないように、よく注意していなさい”という34節の忠告を受けなければならない姿ではありません。聖書がこのように書いているのは、聖書全体が“私たちの救いに関する書物”である事に気付いた人のためだからです。“御心にかなう人々に平和”というメッセージは、“わたしの言葉は決して滅びることがない(33節)”のと同じことです。

# 週報

2006年 12月 3日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸